

令和7年度 乳幼児教育・保育協働研修通信

令和7年11月5日(水)

第15回研修会(教育・保育の質向上分野)

令和7年度 研究園 公開保育
を開催しました。

27名の先生方と一緒に学び合いました。
(保育所(園)3名・幼稚園3名・認定こども園
19名・小学校2名)

※ひいらぎこども園の先生方7名を含みます。

研究園 社会福祉法人 心華会
幼保連携型認定こども園

ひいらぎこども園

研究テーマ

『小さな発見を意味付けて大きく育てる教育・保育の創造』
—「じぶん」「ひと」「もの」の発見を通して—

1.公開保育

0歳児クラス～5歳児クラス





公開保育中の環境構成や保育者の関わりで、
心に残ったこと

(参加できなかった仲間にも知らせたいこと)



子どもの姿

- ☆ 「やってみたい!」を実現
- ☆ 発見を楽しむ。
- ☆ 気付く
- ☆ 子ども同士の対話



- ☆ 自分で考えて楽しむ
- ☆ 自然物を使った遊び
- ☆ 子ども自ら発信、選び、行動する
- ☆ 2歳児のサークルタイム

人的環境

自然な関わり

ファシリテート役

声かけが優しくおだやか

子どもの姿を見届ける

子どもから発言できるきっかけづくり

指示する言葉や大きな声をかける姿を一切見なかった。

子どもたちの声や行動を否定しない姿

子どもの力を信じて見守ること、待つこと、手や声を出し過ぎない

子どもの気持ちに寄り添った意味付けや言葉かけ

子どもの気付きを大切にする

物的環境

- 十分な素材
- 保育室の中が常に遊べる環境
- 季節に応じた環境設定
- 直ぐ近くにある自然環境
- 施設全てがあそびの場でワクワクさせられた。
- 環境の豊かさ、バリエーション
- 次の日も継続できることを保障

11がつ5か(すい)ようび
(おたんじょうびけーき)
なまえ ○○○○



2. グループ協議

研究テーマ 『乳幼児期における遊びを通した学びとは』



グループ協議中に、仲間の発言で心に
残ったこと (参加できなかった仲間
に知らせたいこと)



2歳児 の自立

- お茶を自分でコップに入れて飲んだり、サークルタイムで発現したり、友達の声を聞いたりしていた。

環境構成

- 環境構成が素晴らしかったとグループ全員で伝えていた。
(どこでも行ける環境、欲しいものが欲しいだけ使える環境)
- 子どもの遊びがその日だけで終わらず、継続して遊べる。
- 自然物の多さ
- 子どもたちが今したい・やってみたいが実現できる環境づくりの大切さ
- 本物にこだわり追求すること

発見の 共有

今日子どもが発見したことを担任が写真を撮ってすぐプリントアウトしてサークルタイムで他の子どもたちにも知らせていた。

保育を 語る力

担任の先生と講師の先生とのやりとりを聞いていて、担任の先生の対応の力の高さに驚きました。自分の言葉で保育を語る姿が素敵でした。

考える

植物を取ることがダメではなく、次につなげるのが大事。それを遊びの中でどう活用するのか自分で考えられる声かけを行っている。

人との 関わり

- 0歳児の子どもが楽しんで遊べるのは、心を許せる保育者が身近にいるからだろう。
- 友達から教えてもらうことの喜び・嬉しさ
- 年齢の垣根を越えて活動に取り組む姿があった。



3. 指導助言



鳴門教育大学

名誉教授 木下 光二 先生

講師の先生のお話の中で、心に残ったこと
(参加できなかった仲間知らせたいこと)



遊び

- ・ おもしろいと感じたことは必ず明日もずっと続ける。1日で終わる遊びは子どもが満足して遊んだとは言えない。
- ・ 「遊び!遊びだよ!!」…製作物やがんばりカード、大人にとっては見映えするモノやコトがお互いを息苦しくさせていることがある。
- ・ 遊ばせる保育ではなく、遊び込める保育
- ・ 自分で見つけた遊びを継続することで満足感を得る。

集まる 保育

- ・ 集まる保育を作っていくためにはどう環境を整え、設定していくことが大切か。
- ・ 「集める保育」から「集まる保育」へ
確かに子どもたちが“おもしろそう” “楽しそう” “やってみよう”と思えば自ら集まってくることを改めて気づかされた。
- ・ 子どもたちを集める保育ではなく、子どもたちが集まる保育をしていく。

考える ・ 学び

- ・ 子どものそばで手助けしすぎないこと。子どもは困ったことがあって初めて考えるようになるため、助けすぎると考える力が育たなくなる。
- ・ 遊びの中で先生との距離感の話がされていた。つい手を出してしまいがちだが、子どもたちの中から問題解決する力を奪ってしまう。

環境

今の時期にしかない環境が大事であること

ねらい

- ・ ねらいを常に頭に入れて全員が達成できるように保育をする。
- ・ 今日のねらいでそれぞれがどれだけ達成できたか。
- ・ ねらい…全てのものを取り入れた環境が必要



保育者の指示を減らすこと

子どもたちの遊びの継続を保障できる環境を
実践してみたい

もっと季節に触れてその時期にしかできないことを体験できる環境を作る。

子どもの発見を見つけ、みんなにも共有して日々楽しい保育を心がけたい。

子どもたちへの言葉がけ、言葉選びをもう少し意識しないと思った。

自然物を使った遊びのコーナー作り。

木の葉っぱで冠づくり。
サークルタイムの充実

異年齢での関わりで刺激を受け合うことができると改めて実感したので取り入れたい。

自分がやりたいことを見つけて遊びこむ環境設定を園全体でやっていきたい。

保育室の環境構成の見直し

保育や授業で活かしたいこと



未就園児を担当しているので、0歳～2歳クラスの素敵な環境、光や動くもの、秋の自然物を使っての遊びなど実践したい。

授業改善につながる子どもたちの気づきを増やす体験が新鮮だった。
(小学校)

子どもたちの遊びを流さず、掘り下げてみる。あくまで大人主導にならず、子どもの気づきなどに耳を傾け言葉にし、一緒に具現化していきたい。

部屋でも自然物を使った遊びを考えて取り入れたい。季節のものをもっと取り入れる。

子どもの興味や関心、疑問を活かしたい。
(小学校)

もっと今しかできない季節を取り入れた設定保育を実施したい

そうはなりたくはないと思いつつ、一斉指導に近いようになっていたので自分の興味のあること、やってみようという気持ちをまず大事にしたい。そして自然物など自由に遊びこめる環境を作りたい。

自然に触れること。無理だと思わず、子どもが自由に選び遊べる環境作り。

子どもたちが自由に遊びを選択できる環境づくり。



ひいらぎこども園の先生方の振り返りシートより

保育を公開することで感じたメリット

- 自分の保育を再確認することができる。
- 自分たちの園の環境、保育者や子どもたちの育ちに自信が持てた。
- 指導案を作成する時に本当にこの内容や環境でねらいが達成できるか、子どもが育っていくか、今までよりしっかり考えることができた。
- 子どもの姿をより深く理解しようとした。
- 他の園の方に見ていただくことで子どもにとってどんな環境が必要でその中でどんな育ちがあるのか、意見を聞きながら確認することができた。
- 今一度自分の日々の保育が子どもたちの最善なのか、自分自身に問いかけることができた。また様々な視点でのご意見も学びにつながった。
- 子どもたちにとって環境がとても大事だと思った。今日の保育を振り返り、明日どうするか、日々変化が必要だと思った。



研究に取り組むことで、自分自身が変わったと思うこと

- 子どもたちへの言葉のかけ方
- 今後指導案をより具体的に書き、ねらいを達成するため環境づくりを工夫していく。
- 指導計画や月案を作成する中で自分たちがしていることを分かりやすく伝える言葉づかいや文章をどのように記せば良いのか考え直すことができた。
- 子どもの遊びを見る眼が少し変わったように感じる。
- 子どもの取り組んでいる姿を見て、すぐに声をかけるのではなく、「これからどうなるんだろう」と見守るようになった。
- 子どもへの言葉がけて子どもが気づいていない発見や気づきを意味づけることで子ども自身も気づき、学びや自信につながると思った。

研究に取り組むことで、子どもが変わったと思うこと

- 0歳児なりに自分が行きたいところに行ったり、指をさして保育者に伝えようとしていること
- 自分でやりたい、遊びたいことを見つけに行き、遊ぶ姿がよく見られた。
- 自然物を取り入れた環境を増やしたことで、「あか!」「きいろ!」と色に興味を持ったり、「大きい、小さい」と大きさの違いにも気づいたりしていた。
- 自分がしたいことを伝えたいという力が育ったこと。楽しかったこと、おもしろかったことを伝えたいという思い。
- 「どうしたらいいと思う」という問いかけを増やすことで、自分で考えて答えを出したり、友達の言葉を受け入れられるようになってきたところが変わったと思う。
- 自分でやってみようと挑戦する子どもが増えたように感じる。
- 子ども同士の話し合いが増え、どうしたらもっとおもしろくなるか、遊びが広がっていくか、言葉のやり取りが上手になったと思う。